

【訪問する主な施設、建物、店】

1. 春日大社

奈良時代の768年に平城京の守護と国民の繁栄を祈願するために創建され、中臣氏・藤原氏の氏神を祀る。主祭神の武甕槌命が白鹿に乗ってきたとされることから、鹿を神使とする。「古都奈良の文化財」としてユネスコにより世界遺産に登録された8つの文化財の一つ。

2. 南大門

東大寺大仏殿の山門で、創建時の南大門は平安時代に大風で倒壊し、現在の南大門は鎌倉時代の1203年に再建された。仏師運慶・快慶が制作した金剛力士像（国宝）は寄木造りで国内最大の仁王像。

3. 東大寺大仏殿

奈良時代に聖武天皇が建立した寺で、当初は大仏殿（金堂）のほか、東西2つの七重塔を含む大伽藍が整備されたが、中世以降、2度の兵火で多くの建物を焼失した。現存する大仏は、度々修復を受けており、台座（蓮華座）などの一部に当初の部分を残すのみである。大仏殿は江戸時代中期の宝永6年（1709年）に規模を縮小して再建された。

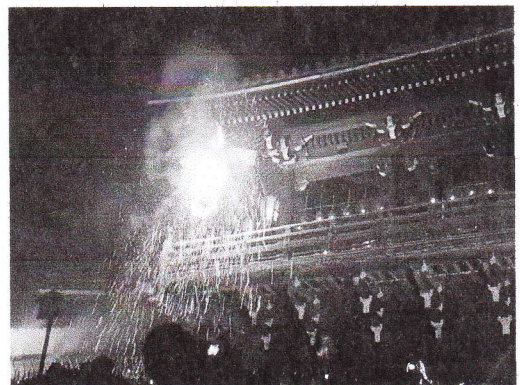
4. 手向け山八幡宮

紅葉の名所「手向山」の山麓にあり、奈良時代（749年）東大寺大仏建立のため、九州豊前国宇佐八幡宮より東大寺守護の神としてむかえ、まつられた。1871年（明治4年）の神仏分離の際に東大寺から独立した。



5. 東大寺2月堂

奈良時代（8世紀）創建の仏堂。現存する建物は1669年の再建で、国宝に指定されている。奈良の早春の風物詩である「お水取り」の行事が行われる建物として知られる。

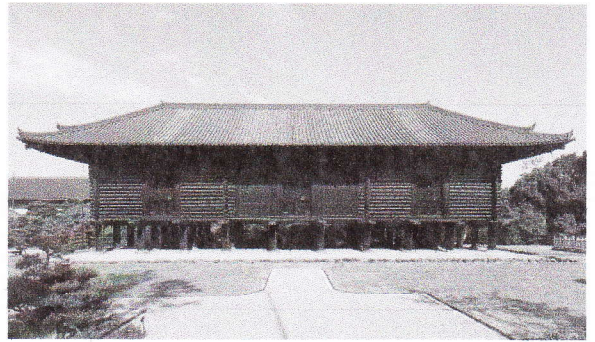


6. 正倉院：入門して見学を予定

奈良時代の官庁や大寺院には多数の倉が並んでいた。「正倉」とは、元来「正税を収める倉」の意である。大寺院にはそれぞれの寺領から納められた品や、寺の什器宝物などを収蔵する正倉があり、正倉のある一面を塀で囲ったものを「正倉院」と称した。南都七大寺にはそれぞれに正倉院が存在したが、歳月の経過で廃絶して東大寺正倉院内の正倉一棟だけが残った。

江戸時代以前は朝廷の監督の下、東大寺によって管理されていた。その後所管は変わり、現在は宮内庁の正倉院事務所が正倉院宝庫および正倉院宝物を管理している。

正倉院の宝物の始まりは、光明皇太后が夫である聖武天皇の七七日忌（756年）に際して、天皇遺愛の品約650点、及び60種の薬物を東大寺の廬舎那仏（大仏）に奉獻したのが始まりである。宝物の9割以上は異国風のデザインを取り入れた日本産であるが、唐や西域、ペルシャなどからの輸入品もある。



正倉院の宝物を見たい場合は、奈良国立博物館で10月27日から11月14日まで開催される正倉院展へ行ってください。

7. 転害門（てがいもん）

東大寺創建当初の数少ない遺構で、切妻屋根を支える八脚の円柱などが特徴的。雄大さと繊細さが見事に融合している。天平時代の八脚門で現存するのは法隆寺の東大門と転害門だけ。



8. 向出醤油醸造元

明治12年（1879年）創業。昔ながらの製法で大量生産品にはない風味や香りを守っている。残念ながら、コロナ禍のため内部の見学は現在できない。

9. 北山十八間戸（きたやまじゅうはちけんこ／きたやまじゅうはちけんと）

鎌倉時代に建てられハンセン病などの重病者を保護・救済した福祉施設。棟割長屋で、内部は18室に区切られ、さらに東西に仏間がある

10. 旧奈良監獄

明治政府が作った「五大監獄」のひとつ、明治41年（1908年）に山下啓次郎が設計した洋風煉瓦建築。星野リゾートによって高級ホテルに改装される予定。現在は内部の見学はできない。



11. 聖武天皇陵、光明皇后陵

聖武天皇は仏教を深く信仰し、東大寺を建立し、奈良大仏を鑄造して天平文化を作り出した。しかし諸寺院の建立などで国家財政が乱れる原因も作り出した。光明皇后は聖武天皇の皇后。

12. 奈良女子大学記念館

明治42年に奈良女子高等師範学校の本館として建設された木造建築で、国の重要文化財に指定されている。残念ながら、コロナ禍のため内部の見学はできない。

